

# 地域の力を学校づくりに

～地域密着型教育を目指して～



八戸市第一中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 藤／第一中学校 コーディネーター：淡路 典子・関野ひさゑ・斎藤 裕子

## 学校や地域の概要

第一中学校は八戸市のほぼ中央に位置し、学区は31町内となっています。吹上小、中居林小の二つの小学校からの生徒を受け入れていて、知的障害学級、病弱学級を含む19学級、生徒数558名の大規模校です。教育活動、部活動も盛んで「日本一の学校をめざそう」を合言葉に生徒たちの志気も高い学校です。

PTA活動も盛んであり、学校教育に対し協力的です。昨年度より八戸市の「地域密着型教育モデル校」の指定を受け、地域の力を学校づくりに役立てることを目指しています。

## わが校のボランティア活動

- ・保護者、地域登録ボランティア（PTAのOBの方々が中心で、自分の子どもが卒業してからも活躍してもらっている）を中心に活動しています。  
我が校では4つの専門部会に分かれて次のような活動をしています。
- ・教育活動支援プロジェクトでは、学校行事への協力、授業への支援など。
- ・学校図書館支援プロジェクトでは、蔵書整備、図書紹介、図書室の装飾など。
- ・環境整備支援プロジェクトでは校内外環境整備など。
- ・情報発信支援プロジェクトでは、地域密着型教育だより「ブルースカイ」発行、ホームページ作成など。

## コーディネートの実際

- ・各プロジェクトの行事には保護者・地域住民へチラシなどで周知を図り、必要に応じてボランティアを集めています。
- ・教員、学校の要望を聞いた上で、実際に出来るボランティア活動を考え、人材を集めてボランティア活動者と教員との調整を図っています。
- ・ボランティア活動者の掘り起こしと、活動していく上での問題点等を把握し、解決に努めています。
- ・地域密着型教育だより「ブルースカイ」と、学校だより「一心」を町内会（回覧用）へ月1回配付しています。
- ・地域教育協議会やその他の会合などの案内作成/配布/資料作成/当日会議の準備をしています。



## 担当者・コーディネーターから一言

教職員・保護者・地域登録ボランティアの間に入り、いろいろなことを調整することが大事な役目だと思って活動しています。

## わが校の主な活動

一番力を入れている活動としては、教育活動支援ボランティアがあげられます。地域の力を学校づくりに役立てる象徴として、地域ボランティア・保護者・学校教職員・生



徒が一丸となって、雨の日の体育祭でグランド整備を行い、無事に体育祭を行うことができました。また、地域ボランティのみで運営される体育祭売店は、現役保護者がゆっくり体育祭を観戦・応援できるとして大変好評でした。

文化祭の作品展示の授業支援の一環として、国語科の書写の指導をお願いしました。実際に手を取り指導していただき、生徒たちの上達が見られました。



## 得られた成果

- ・学校行事や授業支援にボランティアの方が入り、直接生徒とふれ合うことによって生徒たちが「地域に見守られている」という意識を持つようになりました。
- ・環境整備支援や図書館支援などで、校内外が整備され、教育環境が格段に良くなり、気持ちよく学校生活が送れるようになりました。
- ・地域密着型教育により『ブルースカイ』の発行と学校により『一心』を地域に発信することにより、地域に我が校の実情を理解してもらえるようになりました。
- ・地域の力を学校づくりに役立てる努力をすることにより、教職員、生徒、保護者の意識が確実に変わってきています。学校は「地域とともに歩む」という姿勢が学校内外に得られてきています。

## 今後の課題と展望

地域の人材の掘り起こしのため、私たちコーディネーター自身が地域におもむき人脈を広げることが大事だと思っています。また、学校支援本部事業が終了した後も継続して活動できる体制を整えることが必要であると考えています。



# 学校の教育活動に地域の教育力を活かして

～地域に広まれ スマイル吹小～



八戸市第一中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 藤／吹上小学校 コーディネーター：日山 和子・柳沢 りさ

## 学校や地域の概要

吹上小学校は明治6年に創立され、今年度で136周年を迎えた輝かしい歴史と伝統を誇る学校です。在籍数は645名で、部活動が盛んです。過去には合唱部、現在はバトン部が東北大会の常連となり、目覚しい活動をしています。

本学区は、旧市内に位置し大部分は商店街と住宅地です。学区には25町内があり、旧市内と新興住宅地からなり立っていて、商店街の三分の一は中心街にあります。学区は教育に対する関心が高く、PTA活動も盛んです。

## わが校のボランティア活動

吹上小学校では、現在48名が学校支援ボランティアとして登録し、活動しています。以前からのボランティア活動として、地域のお年寄りと児童のふれあい活動があったので、この方たちに登録していただき、活動の継続をお願いしています。新たなボランティア活動に関しては、実践力を養うために養成講座を年に数回（図書支援ボランティア3回・環境整備活動2回）開催し、地域や保護者の枠にとらわれず、活動していただけるメンバーを養成しています。特に図書支援に関しては、学ぶことが多く、今後も養成講座を開催しながら、ボランティアの増員に努めていきたいと考えています。

## コーディネートの実際

PTA役員（現・元）という立場から、保護者との交流が多く、ボランティア活動も保護者中心にお願いしています。保護者も地域の一員という考え方から、今後も活動を継続してもらえるような環境づくりに努めています。

ボランティア活動中は、できるだけ立ち会うようにし、活動中に何かとまどいやトラブルがあっても、すぐに対応できるようにしています。

ボランティア便り『スマイル・吹小』を定期的に発行し、活動の様子やお知らせなどを、先生・保護者・地域に発信しています。

## 担当者・コーディネーターから一言

ボランティアの方々に助けられ、少しずつだが、スマイルの輪が大きくなってきました。感謝の一言です。

とにかく、学校側の手助けになるよう努めています。



## わが校の主な活動

### ◇図書支援ボランティア養成講座

新たに始まった活動、また、現在ようやく軌道に乗ってきた活動として図書支援ボランティアの活動を紹介します。昨年度、3回の養成講座を開き、継続して参加してくれたメンバーが現在中心となっています。登録メンバーは保護者中心ですが、地域の方も2名入っています。



養成講座では、新しい本の受け入れから、廃棄になるまでの作業の流れなど、ボランティアの仕事の内容を細かく教えていただきました。特にパソコンの操作に関しては、基本（貸し出しや返却）から、登録に関するもの、様々なエラーに対処する方法などを学びました。昨年度は、八戸市の図書館協力員が年度内で配置されなくなってしまうという危機感から、皆、必死で研修を積んでくれました。他にも修理の仕方、装飾に関するアドバイスなど、パソコンの操作が苦手なボランティアにもできる活動を教えていただきました。

今年度に入り、週2回の活動日を設け、自主的に活動しています。ボランティアからの発案で、月1回の本の修理日を設け、保護者にも参加を呼びかけています。昨年度で派遣が終了となった図書館協力員の方も、ボランティアとして現在も活躍中です。最近は、図書室の装飾も楽しんでいる様子で、児童たちからも大変好評です。今後も、まだまだ学ぶべきことが多いので、養成講座を開催し、より深く学ぶとともに、ボランティアの輪・スマイルの輪を広げていきたいと考えています。



## 得られた成果

図書室の雰囲気が明るく、来やすくなったという児童の声がありました。また、図書室担当の先生にとっては、図書館協力員さんの力量にはまだまだ及びませんが、少しは手助けになっていると思います。ボランティアさんは、多くの児童との交流を楽しんでいます。また、ボランティア同士も楽しく作業し、相談しながら次の活動の計画を膨らませ、実行しています。

以前より継続してお願いしている地域のボランティア（昔の遊びや読み聞かせなど）の方は、学校をよく理解してくださっているので、大変助かっています。来校者が増えて、児童の挨拶がとても良くなつたと感じています。

## 今後の課題と展望

学校のニーズをしっかりと把握するため、先生方ともっとコミュニケーションを図りたいと思っています。そして、地域の諸団体や町内会との交流を持ち、情報を集め、よりよいコーディネートができるよう努力したいと思います。また、学校支援地域本部事業終了後もボランティア活動が継続できるようリーダーの育成が必要だと考えています。



三八地区

八戸市

# 地域とともに子どもを育てる

## ～中小グリーンの活躍～



八戸市第一中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 穎／中居林小学校 コーディネーター：松田 良子・上 夏子

### 学校や地域の概要

中居林小学校は、八戸市の南側に位置し学区の東側を新井田川が流れています。もともとは、畠作を中心とした農業の盛んな地域として発展してきましたが、最近は住宅地としての性格が強く、一般住宅をはじめ団地などの住宅集合が広がっています。校舎はまわりを自然に囲まれ、校地内には5本のりんごの木を植えています。教育活動の特色として、地域の教育力を生かした総合的な学習や、伝統芸能であるえんぶり（重要無形民俗文化財）があります。

### わが校のボランティア活動

本校では、学校支援ボランティアとして、学習活動支援、生活安全活動支援、環境整備活動支援、図書活動支援の4つの部門で活動しています。

主な活動として、学習支援では、校外学習の同行や学習発表会の大道具作り、焼き芋会の手伝いなどがあります。図書支援では、中休みの貸出し、学級文庫の修理、月2・3回の読み聞かせ、図書室の掲示物など曜日を決めて毎週活動しています。環境整備では、学校菜園周囲の樹木の枝払い、えんぶりで使う銭太鼓の修理、生活安全では毎日の登下校時の安全指導などを行っています。

### コーディネートの実際

校長はじめ、各先生方や来校したボランティアの方々とのコミュニケーションを第一に心がけています。一方的な学校からの依頼だけでなく、ボランティアからの要望なども聞き入れ、学校側に伝えるようにしています。

ボランティアの各部門にリーダーを設け、独自で活動できるように徐々に態勢を整えていく。また、ボランティアの年齢層が幅広いので、活動の内容によっての振り分けが可能です。例えば、校外学習同行には現役保護者、手作業などは地域のお年寄りにお願いしています。

### 担当者・コーディネーターから一言

学校と地域の架け橋になることにやりがいを感じています。事業終了後もボランティアの一員として関わっていきたいと思います。

## わが校の主な活動

### ◇図書活動支援

本校の図書活動支援では、リーダーが中心となり毎週水曜日を活動日と決め、当番制にして図書室の環境整備のほかに、パソコンを使い、登録・貸し出し・返却業務を行っています。また、夏休みからは学級文庫の修理に取りかかり、現在も作業を継続しています。

今後は、低学年の保護者にボランティア登録してくれるよう働きかけていく予定です。

読み聞かせの活動は、毎月2、3回の割合で行っています。読み手のボランティアには地域の人も入っており、子どもたちとも顔なじみになってきていて、読み聞かせの日を楽しみにする子も増えてきました。校内に貼る告知のポスターも手作りで子どもたちが興味をそそられるように工夫されています。



## 得られた成果

学習支援では、校外学習が効率よく安全に実施できました。また学習発表会の背景画をボランティアに委ねたことにより、児童の練習時間の確保ができました。環境支援では、枝払いやペンキ塗りなどで環境美化が進み、また銭太鼓修理では新しくなった銭太鼓を児童が喜んで使ってきました。

図書支援では、図書整備や修理が行き届き、読み聞かせにより本好きの児童が増えました。ボランティアにとっては、必要とされているという感覚が生まれ、自主的に雑巾の寄付をしてくれるなどボランティア活動を通して、児童と学校と地域の絆が強くなりました。

## 今後の課題と展望

今までの活動を通して、コーディネーターの役割の重要性が明確になったので、本部事業終了後も継続して活動できるような組織作りが必要だと思います。そのために、各部門のリーダーにコーディネーターの役割を担ってもらうことが最善の方法だと思います。



# 地域ぐるみの学校教育

～We Love 柏崎～



八戸市柏崎小学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 穎／柏崎小学校 コーディネーター：下田 静子・沢田 淳子

## 学校や地域の概要

柏崎小学校は全児童555名21クラスで三八地区では大規模校です。以前から地域との関わりが深く、学校行事をはじめいろいろな協力を得てきました。

「やる気・根気・勇気」「育てよう夢・つけよう力」を合言葉に、本校のシンボルである「柏の木」のようにしっかりとといのちのリレーをし、心身ともにたくましく生きる児童の育成と「地域とともに歩む学校」を目指しています。

## わが校のボランティア活動

柏崎小学校地域学校連携協議会を設立。地域・PTA・学校が連携しながら、従来あった活動をさらに工夫改善したり発展させたりして積極的に活動しています。教育活動・安全安心・環境整備・交流連携の4つの専門部会が設定されています。各専門部会は様々なボランティア活動の周知を図ると共に協調性を図りながら、今後の方向性や改善点など具体的活動の話し合いを進めています。

## コーディネートの実態

- ・地域連携室として専用教室を設け、ボランティアの人たちの居場所と打ち合わせ場所を確保しています。
- ・柏崎小学校と第三中学校の各コーディネーターは地域本部である小学校で活動し、情報共有と仕事の分担を図っています。
- ・参加者の不安を少しでも解消し、活動に対する意欲や継続意識をもてるようにしています。ネームや腕章をつけることでボランティアの立場を明確にしています。
- ・活動の様子を共有するため、写真を撮って掲示したり「地域連携だより」の発行などをして保護者や地域への情報提供に努めています。
- ・知人を見かけたらボランティアの声かけをして、少しづつでも活動の輪を広げるよう心がけています。

## 担当者・コーディネーターから一言

当初PTA活動と学校支援ボランティア活動との兼ね合いに不安を抱いていましたが次第に理解でき、状況にあわせた運営ができてきました。ボランティア依頼時も『できる時・でき

る人が・できること』を常に伝えることで、意欲的に参加している姿が見受けられ非常にありがとうございます。

## わが校の主な活動

### ◇プール更衣棟ペンキ塗り講習会

今年度の講習会として、プール更衣棟のペンキ塗りを実施しました。

保護者と地域にボランティア講習会案内をしたところ、当日は26名の参加があり一日予定していた作業が半日で終了することができました。地域の方を講師をお願いして、楽しくわかりやすい指導をしてくださいました。

すっかり茶色くなった更衣棟の壁のさび落しからはじまり、マスキングをした後ペンキ塗りをしました。講師の方に刷けさばきや塗り方を教えてもらい、分担しながらスピード一に作業が進められました。

コツをマスターし塗り進めながらその変容に一同びっくりし、より作業に熱が入っていきました。「学校をきれいにしたい。学校を大事にしたい。」という思いを地域・保護者・教員で共有した時間でした。

見違えるほどに仕上がり、参加者はプロの技を学ぶことができ、達成感を味わった有意義な講習会となりました。



講師から指導を受ける参加者たち



色の違いが驚くほどにくっきり

## 得られた成果

- ・学校、保護者、地域が徐々に事業の内容を理解できてきました。
- ・ボランティアの方から、子どもたちから感謝されていることを実に嬉しく誇りをもてたとの声がありました。
- ・子どもたちは地域への関心度が高まり、また地域の人と顔見知りになり社会性が養われてきているのではないかと思います。
- ・子どもたちは学習支援を受け、理解度が高まってきてています。
- ・先生は児童に目が行き届き、より教える時間を確保することができました。
- ・地域の方が学校に来やすくなりました。

## 今後の課題と展望

- ・ボランティア活動者が固定化されつつあり、活動者の輪をさらに広げていきたいと思います。
- ・継続した活動にするため主導的人材の確保に努めること。
- ・今後の活動に伴う消耗品等の資金源の確保。
- ・本事業終了後の活動の継続方法について話し合いをもつこと。



# 地域とともに学校教育



We Love 柏崎

八戸市柏崎小学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 穎／第三中学校 コーディネーター：戸田 徳子・高橋多佳子

## 学校や地域の概要

第三中学校は生徒数340名。「開拓・創造・協力」を伝統的精神として重んじ、知・徳・体のバランスのとれた生徒、豊かな心を持ちたくましく生きる生徒の育成を図っています。今年度は『すすんで学び 思いやりのある たくましい生徒』を目指す生徒像として、地域・家庭・学校が連携して教育活動を推進しています。

地域においては、各団体の活動が盛んであり、学校と協力して子どもたちを見守る態勢ができています。

## わが校のボランティア活動

平成21年度から地域の協力のもとに地域学校連携協議会を組織し、教育活動・安全安心・環境整備・学校図書館支援の4つの専門部会のもとでボランティア活動を進めています。

これまでに、次の活動を行ってきました。

- ・玄関ホールの生け花の管理
- ・校地内の草取り
- ・部活動延長時の通学路パトロール
- ・文化祭協賛バザーへの協力

## コーディネートの実際

- ・「学校支援ボランティア」に関する啓発用リーフレットを作成。
- ・地域連携室として教室を確保し、ボランティアの人たちの居場所を確保。
- ・コーディネーターを地域本部に配置。
- ・広く地域の方々へ、回覧を通じて協力を呼びかけました。
- ・活動後も、ボランティアの方々とコミュニケーションを図り、次の活動協力につながるように配慮しています。
- ・ボランティア登録を進め、ボランティアバンクを作成しました。
- ・ボランティアがスムーズに活動できるように配慮しています。

## 担当者・コーディネーターから一言

- ・教職員からの本部事業の内容に理解を持ってもらうことと協力・依頼に苦労しました。



- ・学校教育を支援する地域全体との関わり方をもっと研究しなければならないと感じています。
- ・学校担当者とコーディネーターとの打ち合わせの時間がもっと必要です。
- ・同中学区の柏崎小学校のコーディネーターからの助言や協力で助けられました。

## わが校の主な活動

8月23日（日）グラウンドおよび校地外周の草取りを行いました。保護者への案内と地域への回覧により、多数の保護者の他に地域から6名の参加を得ました。生徒の祖父母のみならず地域からの協力が得られ、保護者や生徒と協力しあい作業を進めました。作業終了後、地域の方には校舎内で休息をとってもらい、草取り担当のPTA委員会委員よりお茶をだしました。



地域の方から、「地域からもっと多くの参加があると思っていたが、参加者が少なく驚いた。」との感想とともに、「次は、他の人にも声をかける。」との申し出を得ました。生徒も祖父母以外の地域の方と交流する機会を得て、地域の方を知るとともに、地域の方に自分たちを知ってもらうことができました。



玄関ホールの生花は、毎月2～3回地域の方（1名）が来校し、活けています。毎日季節の花を堪能でき、職員・生徒の心の癒しとなっています。

## 得られた成果

- ・ボランティア活動に参加して、「生徒たちと直接触れ合って楽しかった」と感想をもらいました。
- ・活動に協力した方から、口コミで他の地域の方にもボランティアの輪が広がっています。
- ・生徒は保護者以外の地域の方との交流の機会を得ることができました。

## 今後の課題と展望

- ・より多くの保護者や地域の方々に「学校支援地域本部事業」について関心を持ってもらえるような働きかけが必要です。
- ・地域への情報発信と案内の方法として、回覧のお願いをしていますが、回数によっては、回覧が負担となっていて、工夫が必要です。



# 生徒の笑顔のために

～「アスネットねぎし」を中心に～



八戸市北稜中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 穎／北稜中学校 コーディネーター：長谷川由紀子・早坂 泉

## 学校や地域の概要

八戸市内20番目の中学校として昭和57年に北稜中学校は開校しました。市内北部の丘陵に位置し海上自衛隊八戸駐屯地、工業地帯、第2工業港に隣接し、かつての田園風景から住宅街へと変貌を遂げた学区ですが、古き良き慣習による人情の深さが残っている地区もあります。

学校発足と同時に八戸の伝統芸能の「えんぶりクラブ」ができ、地域住民に支えられて、北稜中といえば「えんぶり」といわれる程になっています。地域住民の教育に対する関心が深く、ボランティア団体「アスネットねぎし」が広く活動し、学校にも積極的に足を運んでくれる地域です。

## わが校のボランティア活動

「えんぶり」の指導をはじめとし、学校の発足時よりPTAや地域住民の学校に対してのボランティアは活発に行われてきました。特に平成11年に「アスネットねぎし」が発足した後はさらにその活動の域が広がっています。

地域の方々は体育祭前の校庭の環境整備や入場門作りはもちろんのこと、学校行事に際して色々な場面で協力を惜しみません。総合的な学習の時間のゲストティーチャーとして、地域の歴史や郷土料理、茶道・華道の指導に当たっています。

また、長期休業中の巡回活動、プール監視、環境整備（花壇の整備、校舎ペンキ塗り）、部活動指導にも当たっています。

## コーディネートの実際

まず、ボランティアの依頼を受け、PTAで対応できるものかどうかを判断します。プール監視や校庭の草取り等PTAで対応できるものはPTA内でボランティアを募り活動しています。PTAでは対応しきれないもの（地域の伝統芸能「えんぶり」指導や郷土史の講演会など）については、地域のボランティア団体「アスネットねぎし」や地区公民館利用者などに広く呼びかけ活動者を募っています。

## 担当者・コーディネーターから一言

地域に既存のボランティア団体「アスネットねぎし」があったため、この事業が始まった

時も特に心配なことはなく、スムーズに取り組むことができました。今では「地域の子どもは地域で育てる」という気風も育ちつつあり、ボランティア活動を通じて得た連帯感、郷土愛をまちづくりにも活かしていきたいと考えます。

## わが校の主な活動

### 【1】伝統芸能「えんぶり」クラブ支援

市内でも「えんぶり」を学校として取り組んでいるのは北稜中学校だけです。わが校のえんぶりは2月のえんぶりに参加するだけでなく、入学式・文化祭の校内行事、地域の敬老会や国体など活躍の場が多く、一年を通して地域のえんぶり組の親方らに指導していただいています。



### 【2】「根岸音頭」支援

北稜中学校では体育祭に地域の方々と一緒に「根岸音頭」を踊っていて、体育祭前に地区の連合婦人会の皆さんに踊りの指導をお願いしています。



### 【3】総合的な学習の支援

1学年の総合的な学習の支援として、北京パラリンピックに出場した当地区の坂本朋子さんに講演をお願いしました。講演の後、生徒たちと実際にシッティングバレーの試合を体験しました。



## 得られた成果

中学校での学習支援は難しい面もありますが、部活動支援や環境整備などにおいてはボランティアの領域が開拓されつつあると思っています。校舎内外の整備では金銭的負担も最小限で進めることができました。また、教師だけではまかないきれない部分をボランティアの力で行うことができ、生徒たちと地域の人々との交流を通じ、生徒の人間関係構築力がついてきました。

ボランティア活動を通じて、地域住民と学校が一段と近づいているように思います。北稜中のためなら、北稜中の生徒のためなら、やってやろうという気持ちが強く、ボランティアをする側の生きがいにもなってきています。

## 今後の課題と展望

小学校に比べると中学校には学校支援ボランティアが入り難いといわれていますが、ボランティアが学校に入っていく場面は「地域密着型教育」を進める上でまだまだ無限大のように思われます。学校側がやってほしいこととボランティアがやれることが違っていたり、危険を伴うようなボランティアを募れない分野もあるように思います。

また、地域には色々な知識・技能を持った人材がまだまだ埋もれていて、人材の発掘にも力を入れたいと考えています。

# 学校のニーズに合わせた学校支援事業

～PTAと地域の組織力を活かす～



八戸市北稜中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 晴／日計ヶ丘小学校 コーディネーター：小松 和恵・新田 奉文

## 学校や地域の概要

日計ヶ丘小学校は平成5年根岸小学校より分離した学校です。児童の90%が海上自衛隊の保護者です。他は陸上自衛隊と地元の児童で構成されています。児童の転出入が多く6年間 在籍する児童は少なく、沖縄から北海道までの全国から児童が集まっています。近年、基地の部隊縮小から児童数が激減し、児童数151名、各学年1学級に減少しました。海上自衛隊、陸上自衛隊の官舎が並び、地域一帯の官地には草地と公園、松林が広がっています。

## わが校のボランティア活動

【保護者ボランティア】・クラブボランティア（バトミントン、ソフトボール、家庭科、イラスト）・縦割り班全校遠足引率補助（登山＝8班に2人）・生活科学習（学区探検に各班の見守り）・水泳指導補助（低・中学年着替え、シャワー、水遊び）・スケート教室補助（低・中学年靴の紐結び、スケート指導）・サポートドリル採点補助（PTA役員）

【地域ボランティア】・運動会全校踊りの指導（婦人会）・総合学習（地域の食の豆しとぎ作り）・社会科見学の講師（昔の道具説明）・クラブボランティア（森あそび）

【保護者主体のボランティア】・読み聞かせ（毎月2回木曜日）・図書室貸出業務・美化（毎週金曜日、季節の掲示物、貸出ベストランキング）

## コーディネートの実際

2人のコーディネーターは、学校のニーズが生じた時点で保護者ボランティアと地域ボランティアの要請を分担して行っています。保護者ボランティアはPTA組織の学年委員会の連絡網を活用して各学年からの参加者を募り、地域ボランティアは地区のボランティア組織のアスネットの事務局と連絡して募っています。また、ボランティア活動の啓蒙と気軽に参加してもらう情報発信を目的に学校支援便りを発行し活動事例の紹介を行っています。

## 担当者・コーディネーターから一言

モデル校として始まり、コーディネーター3年目になりました。はじめは何をどうすれば良いのか全く分からず手探りでしたが、それぞれ自分の学校にあったボランティアの形を見つけることが大事だと感じました。

## わが校の主な活動

平成16年に始まった『読み聞かせの会・ぶっく・びーんず』は6年目になりました。一人の保護者の『子どもたちに読み聞かせをしたい』という思いが周りの保護者的心を動かし、6名のメンバーでスタートしました。当初は保護者や児童にも浸透せず試行錯誤でした。そこで『やりたいことだけを考えるのではなく、ずっと続けられる方法を考えよう』と話し合いを重ね、現在の月2回、隔週木曜日という形が定着しました。このことで沢山のメリットが生まれました。学校行事やメンバーの都合に



合わせ日程を組めるので負担も軽くなりました。学期末には次の学期の日程を決め、新学期には『ぶっく・びーんず通信』を発行し、各家庭に日程をお知らせすることもできます。



現在メンバーは11名ですが転出入が多く、メンバーが抜けることもあります。そこで通信で見学の呼びかけや、口こみで参加しやすい雰囲気を伝え、活動者を募っています。活動時間は昼休みに行ってています。当初は児童が中座して集中できない場面が多く見られたので、飽きないように読むのは10分程度と設定しました。また、お話の途中で立たない、おしゃべりしない等、マナーを『お約束』として毎回一緒に声に出して読むことも続けました。教室にはゴザを敷き、靴は揃えて脱ぐ、下学年に前の席を譲る、ということも約束として定着しています。

学期末には手作りのプレゼントを贈り、看板も毎月、季節に合わせて変え、多くの児童に来てもらえるよう工夫しています。読み手は当番制にして、絵本や紙芝居、大型絵本等をそれぞれが準備します。活動の後には日誌を必ず書き、お茶を飲みながら反省をし、楽しい雰囲気作りをして活動を続けています。



## 得られた成果

学校支援地域本部事業として活動するようになり、学校支援便りなどでボランティアの方を紹介することによって、今までの『お手伝い』という感覚から『ボランティア』として活動している、という位置付けができるようになったような気がします。子どもたちにとっても保護者や地域の方とより多く関わり、学校以外でも顔見知りの大人がいつも傍にいるという安心感は、のびのびと育てる一歩になるのではないかでしょうか。また、わが子以外の子どもと接することは大人にとっても大切なことだと思いました。



## 今後の課題と展望

年間を通してかなりの活動があり、どうしてもボランティアが固定化してしまう傾向にあります。興味があっても参加する勇気がない等、まだまだ眠っている新たな人材のためにも学校支援便りなどを活用し『自分も参加してみたい』と思ってもらえる工夫をしていきたいと思います。

# きらきら輝く根岸っ子

～地域の人たちとつくりあげる～



八戸市北稜中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 穎／根岸小学校 コーディネーター：福田 敦子・中村 正記

## 学校や地域の概要

昭和23年12月1日に根岸小学校として独立。八戸の北部に位置し工場地帯、八戸第二工業港、新興住宅地、商業地、市営・県営団地が広がっています。今なお古き良き慣習や人情の深さが残っている地域です。

我校では、郷土芸能の「虎舞い」や総合的学習の時間等で、ボランティア団体「アスネットねぎし」の方々を活用し、文化伝承を取り入れた教育活動を行っています。

また、空き教室を利用した「郷土学習資料室」では、地域の方から寄贈していただいた昔の衣・食・住から農耕具等で先人たちの暮らしが学習できます。

## わが校のボランティア活動

総合的な学習では、学校田を利用してもち米作り。田植えを初め、稻刈り、昔の道具を使っての脱穀、餅つきまで一連の体験や、しめ縄で正月飾り、畑で育てた大豆で豆しとぎ作り、お手玉や竹とんぼで昔の遊び、クラブ活動では「茶道」「将棋」「昔の遊び」「ハンドクラフト」「グラウンドゴルフ」の指導を「アスネットねぎし」を中心とした地域の方々から指導していただいていて、異世代交流のよい機会にもなっています。

また、PTAや地域住民の協力で運動会の入場門設置、全校児童を対象に根岸音頭の支援、花壇の整備、町探検、下校時の防犯パトロールなど様々な活動が活発に行われています。

## コーディネートの実際

学校側からボランティアの依頼状況を確認します。依頼状況について学校の担当教員と連絡を取り合って、具体的な要望を把握、ボランティアの確保をし、学校とボランティアの調整を行います。

また、ボランティアには電話で依頼をしたり、内容の詳細を作成してお願いをしています。

## 担当者・コーディネーターから一言

地域には、以前よりボランティア団体「アスネットねぎし」があり、地域の協力体制ができていてボランティアの依頼がスムーズにでき助かっています。また、活動を通して異世代の交流、地域同士の交流も行われています。地域の伝統や文化の大切さを実感しました。



## わが校の主な活動

### 【1】PTAによる巡回活動

校外指導委員会を中心に夏休み、冬休みには巡回指導を行っています。また、下校時間に合わせて地域のパトロールを行い子どもたちの安全を見守っています。



### 【2】クラブ活動支援のひとこま

「茶道クラブ」では着座の姿勢、挨拶の仕方からお茶、お菓子のいただき方を学んでいます。少し緊張しながらお抹茶と美味しいお菓子をいただき楽しくお稽古をしています。



### 【3】総合的学習の支援～もち米を育てる～

5月下旬、5年生の子どもたち93名は学校田で田植えをしました。田植え初体験の子どもたちは、植え方の指導を受け、きれいに苗を植える昔ながらの道具「田植え網」を使っての作業です。泥に足を取られながら一生懸命に苗を植えました。秋の収穫と餅つきが楽しみです。



## 得られた成果

校長、教頭を頂点に学校全体に支援要請の仕組みが理解され、総合的な学校支援の要請がスムーズに実行されています。

総合的な学習では様々な体験活動、交流活動へと結びつき子どもたちも地域に関心を示すようになりました。

ボランティアも得意分野での活動が生かされ喜んでもらえました。また、生き生きとした姿がみられ、やりがいも感じられました。活動後も交流を深め情報交換ができました。

## 今後の課題と展望

学校のニーズに応えているもののボランティアの高齢化が進んでおり、世代間の交流を図り、若年層の地域活動への参加が望まれます。

ボランティアの活動の様子を掲載した広報誌を作成し、より広くその様子を知らせる必要があると思います。

# 図書ボランティアスタート

～先生方の力強いサポーター～



八戸市小中野中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 祐／小中野中学校 コーディネーター：中村 智子・奥山二三夫・中村奈津世

## 学校や地域の概要

小中野中学校は昭和22年開校、今年度が創立62年目になります。かつては大規模校のひとつでしたが、現在各学年3クラス・全生徒数279名の中規模校です。朝の始まりを告げる「希望の鐘」と「ひとつのつぼみは一度しか開かない」という言葉が今も心の支えとして受け継がれています。

漁港を有し、商工業の進展地であり、「小中野えんぶり組」「左比代虎舞」などさまざまな豊かな顔を持つ歴史と伝統のある地域です。

## わが校のボランティア活動

まずは地域の皆さんに気軽に学校に足を運んでもらうために、その拠点となる「ボランティアルーム」を開設しました。お茶を飲みながら、あれこれアイデアを出しあっています。一年を通じて、地域の関係機関と連携しながら、朝の「あいさつ運動」や登下校時の交通安全・不審者対策の「パトロール」「見守り活動」を行っています。また、えんぶりや虎舞いなどの伝統芸能や部活動に協力してくれる人を募集し指導していただいている。校内の環境整備として、廊下のペンキ塗り、さらに図書ボランティアが活発に行われています。

## コーディネートの実際

平成20年より本事業により活動しています。主に防犯パトロールや樹木の剪定・校舎等の補修ですが、外国経験豊富な校長が赴任されたことにより、視野が広がっています。この地域はお年寄りがいろんな方面で活躍されていて、その方たちに学校支援をお手伝いしていただきながら、学校を中心にして地域全体の結びつきを強めていこうというものです。「学校菜園」「将棋などのゲーム対決」他にもたくさんのアイディアが出され、具体的な話し合いをしたり、協議会会長を中心の人選をしている最中です。

## 担当者・コーディネーターから一言

今年度からの新しい取組で活動しているのは「図書ボランティア」です。現在保護者だけの登録なので、卒業生保護者や地域の方々にも学校に足を運んでもらえるようなPR、そして雰囲気作りをしていきたいと考えています。

## わが校の主な活動

◇中学校の図書室を昼休みに開放！

今年度、図書支援の先生が代わったこともあり、初めて図書ボランティアを立ち上げる旨

の協力要請がきました。まずはコーディネーター自身が、図書ボランティアの実態を知るべく他校への視察・情報収集に出かけました。そして、保護者対象の募集広告を作成し、講師を招いての講習会を開催し、その日から図書ボランティア活動をスタート。この活動は誰でもできることをアピールし、無理せず気軽に参加していただけるようチラシだけではなく、参加した方からも口伝えでも誘っていただいている。



保護者同士「おしゃべりしながら楽しい！簡単！子どもや学校のため！」ということで、少しずつですが人数も増えてきています。現在は10名程で、週2日2時間の中で、各人が都合の良い日良い時間に活動しています。

図書の整理や補修に加え、他校の図書室に触発され、図書室に飾り付けも行うようになりました。7月には「七夕飾り」10月には「ハロウィン飾り」と季節に合わせた飾りを折り紙などで作っています。時には、休み時間に図書室に本を借りに来た生徒たちも一緒に、ボランティアの方々とおしゃべりしながら同じ時間を過ごしています。

以前は図書室が生徒たちのたまり場や、授業中抜け出してたむろしているということがあつたようで、学校側としても困っていた矢先、ボランティアを立ち上げることによって、保護者と一緒に問題の解決に向かおうとしました。昼休み時間を中心にボランティアが図書室にいることで、その問題はあっさり解決！！今まで先生方が代わる代わる図書室を巡回していた時間に、違う仕事ができるようになりました。たかが図書ボランティアですが、先生方の力強いサポーターです。

図書担当の先生を始め、どの先生方も来校したボランティアに温かい声をかけて下さり、ボランティアもその声に報いるように一生懸命活動しています。



## 得られた成果

今年度の大きな活動としての「図書ボランティア」は学校からの要請の第一に、「図書整理はもちろんだが、一部の生徒たちのたまり場になっているので、昼休みに常駐して欲しい」とのことでした。やはり大人が一人いるだけでも、静かに本を読んだり、調べものをしたり、最初は戸惑い気味に遠巻きで見ていた生徒たちも、次第に挨拶してくれ、手伝いをしてくれる生徒も出てきました。先生方はいつでも、どのボランティアの方々にも快く迎えて下さるので、ボランティアの方々も気持ち良く来校し、学校の様子や子どもたちのことも知ることができ、さらに生徒たちとも話しをしたり楽しそうです。

## 今後の課題と展望

全保護者対象に、何回かボランティアの案内をして来ましたが、参加する方は同じ顔ぶれに固定化されている点が問題です。保護者同士誘い合ってくれるようアドバイスしています。またコーディネーターの顔・名前・仕事を知らない方が多く、保護者・地域共に私たちのことを知っていただくことが課題だと思っています。

# 学校へ行こう！小中野小学校学校支援ボランティア

～子どもたちに活かそう私たちの実践を～



八戸市小中野中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 祐／小中野小学校 コーディネーター：平間 恵美・小平るり子・伊藤裕美子

## 学校や地域の概要

小中野小学校は児童数528名で、まちの歴史とともに明るく活力のある学校です。「書の教室」書初誌上巻では、全国優勝（29回）の記録を重ね、地域との結びつきも深く、多くの地域の皆さんに支えられています。小中野中学校区は、小学校一校と中学校一校、一つの連合町内会で成り立ち、公民館を中心に早くからまちづくりにも力を入れてきました。小中野小学校は、学校支援ボランティア事業3年目を迎える、地域のまち駅となりつつあります。

## わが校のボランティア活動

- ◎学習支援 郊外活動の支援や講師として・・地域の歴史や戦争の話の講師、まち探検の引导率、スケート教室のお世話、家庭科の実技補助や調理指導、理科・総合で、稻作や畠づくりの指導、学年の親子集会でも、多くの皆さんに来てくださいました。
- ◎環境整備として・・ビオトープの整備や校庭の草刈りなどは、PTAの皆さんといっしょに三世代でお手伝いくださいました。安心安全や防犯の見回り、4月の新一年生の登下校を皮切りに、毎日欠かさず立哨してくださる方、災害時の全校生一斉下校の時も、町内の連絡網を使って、たくさんのボランティアに参加していただいています。

## コーディネートの実際

まず年度初めの職員会議で、事業の説明と、ボランティアを依頼する申込書を配布し、また年間行事を早くに出していただきました。また、ボランティアルーム開設によって、多くのPTA・地域の皆さん・先生方が立ち寄ってくださり、活気が出てきて、自分たちで仕事が見つけられるようになりました。また、「ボランティア研修」の開催で、新しいボランティアの方を募り、PTAと連携することによって、PTAの学年の行事にも、地域のボランティアの皆さんに入っていたことができました。



## 担当者・コーディネーターから一言

今年度は、職員室に名札を設置していただいたことで、コーディネーターのやる気につながりました。私たちはできるだけ多くの方と、言葉を交わして、人と人をつなげていくことが、コーディネーターの役目を感じています。

## わが校の主な活動

### ◇学校・PTA・地域の連携で楽しい学年集会！

9月に3学年の親子集会がありました。これは、学年の先生から、地域の文化を受け継ぐためにも、地域にある小中野ばやしの踊りを、皆で覚えたいという意向を、PTAのお母さんたちが受け止め、地域の皆さんとの力を借りて、親子集会で実現しました。

コーディネーターは、話をいただきながら、公民館の力もお借りしてテープを見つけ、講師を探して、橋渡しするだけでしたが、先生方とも想いが共有でき、子どもたちを中心に学校とPTAと地域が一つになって、とても素敵な集会となりました。当日は、踊りの先生でもある地域の婦人会の皆さん、昔、歌を吹き込んだ交通安全協会の会長さんに保護者、先生、子どもたち皆で、地元の文化を受け継ぎました。これをきっかけに、今の区民運動会で多くの子どもたちと地域の人が、大きな輪を作り踊ることができました。コーディネーターは「人と人をつなぐ」役目と実感しました。



## 得られた成果

地域の人材に積極的に「学校へきてください」と呼びかけることにより、地域の方々が学校に入る機会が増え、学校に入る際の手続きやボランティア（地域の方）との連絡を、コーディネーターが行うことで、先生の負担も減りました。また、子どもたちとの交流により、ボランティアの皆さんのが活き活きと活動することができました。コーディネーターもボランティアルームができたことで、先生方との距離感が縮まり、学校の様子を理解し、学校と地域とのパイプ役にやりがいが出てきました。何より、子どもたちの顔を覚え、学校内外での声の掛け合いが増えることで、地域で子どもを育むことにつながりました。

## 今後の課題と展望

今後は、事業を知らない地域の皆さんが多くいる現状と、先生方の理解度の格差をうめるため、根気よくPRすることに取り組みます。研修会を継続して開催し、新たな人材を増やし、図書支援も、ボランティアのシフト制を確立して運営していきます。PTAとの連携を深め、事業終了後も安心安全のまちづくりの発展につなげていきます。

# 「地域が学校の応援団」

～地域と家庭、学校が手と手を取り合って～



八戸市白山台小学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 祐／白山台小学校 コーディネーター：武尾江利子

## 学校や地域の概要

白山台小学校は平成8年4月に八戸市内で43番目に開校し、開校当初は8学級でスタートしました。現在では26学級820人の市内一大きく元気な学校です。白山台小学校のある八戸ニュータウンは人口約8千人の開発中の町で、地域の方々をはじめ保護者も協力的で、通学路の見守りや学校でのいろいろな活動をサポートしてくださっています。

## わが校のボランティア活動

わが校では主に学習支援活動と環境整備活動にボランティアとして地域や保護者の方々にお手伝いをいただいている。学習支援では朝の読み聞かせ、家庭科実習補助、土曜一三広場補助、特別支援児童への学習支援など、環境整備では学校図書館支援、校地内環境整備等と地域本部事業一年目から二年目へと活動の輪が広がっています。

また、PTA活動も盛んに行われ、棲み分けをしながら無理なく楽しく活動を進めています。

## コーディネートの実際

年間を通してほぼ確定している活動の日程について学校と協議し、年度初めにボランティアとの打ち合わせを行っています。日程の変更やボランティアの欠席等がある場合には、学校とボランティアの双方に連絡調整をします。

また要望のあった支援に協力できるボランティアの募集をし、申込者に具体的な日程と内容を知らせます。活動の終了後に反省会を開き、ボランティアからの意見要望等を聞くことにしています。読み聞かせや学年でのお手伝いの時には子どもたちからのメッセージも届けています。

## 担当者・コーディネーターから一言

職員室やPTA活動室に机を置いていただいているので、先生方や保護者の方とも連絡が取りやすく、学校の様子も良くわかります。双方にとって無理のない支援が継続出来るよう努めています。

## わが校の主な活動

### 【1】土曜一三広場ボランティア

毎月第一、第三土曜日の午前中に学校で読書タイムのサポートや読み聞かせ、漢字練習のサポート、百人一首の読み手などを行っています。また、年に2回実施している漢字検定の補助も行っています。

また、中学生による読み聞かせや劇なども企画して、幅広く参加してもらえるようにしています。子どもたち、保護者と地域の方々の世代間交流の場になり、「地域と共にあら学校」としての居場所づくりを目指しています。



### 【2】朝の読み聞かせボランティア

毎月1回、木曜日の朝に全学年26クラスにボランティアが一人ずつ入って読み聞かせをしています。ボランティア同士で読み聞かせを聞きったり、選んだ本の話題で盛り上がったり、少しでも子どもたちに本の楽しさをわかってもらえるよう活動しています。

## 得られた成果

ボランティアとして地域の方に入っていただいたことで、学校と家庭、地域の距離が近づいてきています。そのことで更にいろいろな得意分野を持っている方々と知り合える機会が増えました。

## 今後の課題と展望

この事業が継続されることを強く願います。



三八地区  
八戸市

# 地域とふれあい地域の中で育まれる子どもたち

～学校のニーズと地域の思いをつなぐ支援活動～



八戸市明治小中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 祐／明治小学校 コーディネーター：林 昭子・山田 リカ

## 学校や地域の概要

明治小学校学区は八戸市の西に位置し、馬淵川の下流に沿った緑豊かで広範な地域を有しています。学区内に国宝を所蔵する櫛引八幡宮や遺跡などがあり、歴史的にも古く自然豊かな環境の中�습니다。児童数は210名で素直でスポーツを好み明るく元気な子どもたちです。教育目標「豊かな心と学ぶ意欲をもち、たくましく生きる子」を目指し、地域・家庭・学校が連携して教育活動を推進しています。

## わが校のボランティア活動

平成20年6月に明治小学校地域教育協議会を発足し、2名のコーディネーターを配置してスタートしました。以前からあった図書ボランティアや部活動コーチの活性化を図るとともに、事業の地域への情報発信活動・各種ボランティアの募集・人材バンクの登録などの活動を推進しました。

特に、学校のニーズに応じて、新たに学習ボランティア（低学年の漢字ノートや算数習熟度別学習の丸つけ手伝い）を活性化するとともに、地域の消防団（AED使用の研修）や健康推進委員会の方々（伝統料理の食育学習）と連携した活動も繰り広げました。

## コーディネートの実際

### ①学校側のボランティアに対するニーズの把握

先生方から、「ボランティア依頼書」に記入して、約2週間前までに提出してもらいます。コーディネーターが詳細をたずね、募集チラシを作成（急ぎの際は電話で依頼）しボランティアの確保にあたります。また、月の初めには、学校側（校長・教頭）とコーディネーターとの打ち合わせをし、活動の確認をしています。

### ②本校コーディネーターのポイント

リーフレットやポスターで活動紹介に努めるだけでなく、各集会の場でコーディネーターの顔を知ってもらいながら事業の宣伝をしています。また、各研修への参加や他校との連携でコーディネーターは学びながら活動しています。

## 担当者・コーディネーターから一言

現在活動していただいている方はもちろん、たくさんの方に参加していただける活動の場



をつくり、この事業が終わってからも継続できる基盤をつくっていこうと頑張っています。

## わが校の主な活動

### 【1】まわしつけ・流鏑馬衣装着付

毎年参加している櫛引八幡宮例大祭での流鏑馬衣装着付けや、地域の方による奉納相撲大会まわしつけ・行司指導を行っています。



### 【2】丸つけ

保護者ボランティアの方が毎日交代で（2～3名ずつ）低学年の漢字・計算ノートの丸つけをしています。



### 【3】稻刈り体験引率と手伝い

毎年5学年の総合学習として、地域の田んぼをお借りして、稻刈り体験をしています。田んぼまで引率のお手伝いをしたり、稻刈りの安全補助にあたります。



### 【4】救命(AED)講習会

夏休みのプール監視は保護者の皆さんにお願いするため、きちんと救命法を習いたいという声がありました。AEDが設置されたこともあり、消防団のご協力で講習会を開くことができました。

## 得られた成果

「やってみたかったけど、行きにくかった」という保護者も多く、一度声をかけると続けて参加してくれる方が増えました。「子どもたちの様子もわかるし、楽しい」というボランティアの声は、とてもありがたいものです。

現在、低学年の漢字・計算ノートの丸つけボランティアが、毎日活動しています。これにより、漢字・計算の定着だけでなく普段のノートの書き方も上手になっています。



## 今後の課題と展望

丸つけのように、毎回募集せずに活動していく形作りをし、学校のニーズに応えていきたいと思います。また、地域との交流を図り、子供たちのお爺ちゃんやお婆ちゃん世代の皆さんに参加していただけるような活動にしたいです。地域にまだある教育力をボランティアという形で子どもたちに提供していくための基盤をしっかりと作っていきたいと思っています。

# 地域の力を子どもたちのために

～できるとき、できることを～



八戸市明治小中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 祐／明治中学校 コーディネーター：高坂 洋子・石橋 育子

## 学校や地域の概要

明治中学校区は、八戸市の西部に位置し、近くには馬渕川が流れ、緑豊かな田園地帯となっています。また、学区内に国宝を所蔵する櫛引八幡宮や遺跡などがあり、歴史的にも古く、自然豊かな環境の中�습니다。

生徒数は123名で、3学年合わせて5クラスの市内では小規模校に該当しています。

PTA活動が活発で、特に広報委員会は平成18～20年度の3年連続八戸市連PTA最優秀賞、「全国小・中学校PTA広報誌コンクール」は19・20年度の2年連続日本PTA全国協議会会長賞を受賞しました。

## わが校のボランティア活動

現在3名の方が、図書ボランティアとして活動しています。また、部活動コーチとして地域の方3名が、ソフトテニス部で指導しています。

## コーディネートの実際

基本的に、学校側の要望に沿ってボランティアを募集し、学校とボランティアの調整を行い、実際の活動につなげていきます。

- ・コーディネーターの活動場所の確保（家庭科準備室の一部）
- ・小学校と共同でポスターとリーフレットを作成し、本部事業の周知と学校支援ボランティアの募集を実施

## 担当者・コーディネーターから一言

昨年度から活動している小学校のコーディネーターと綿密に連携しながら、かつ、他本部の学校と積極的に情報交換を行い、これから活動に活かしていきたいと思っています。



## わが校の主な活動

### 【1】図書支援ボランティア

7月より活動を始めています。月2回程度、午前中に、図書室の整備全般を行ってくれています。



### 【2】図書ボランティア養成講座

1月28日明治中学校図書室において、図書ボランティア養成講座が開かれました。

当日は、図書室整備として、講師の方から図書の修理や分類の仕方の指導を受け、さらに実際にブックコートを付けて図書の修理を実践してみました。



### 【3】部活動ボランティア

ソフトテニス部のコーチとして、技術的な指導をしてくださっています。



## 得られた成果

図書支援ボランティアは、まだ始まったばかりですが、部活動においては、その競技の専門的な知識・技能を持つ方に指導してもらうことで、子どもたちの技術が向上しました。

## 今後の課題と展望

保護者の方にアピールして、メンバーを増やし、楽しみながら充実した活動にしていきたいです。学校が望んでいる環境整備面においても、実施できるようにしていきたいと思っています。